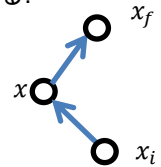


経路積分

・経路積分の発想

始点と終点を結び、無数に分布していると考え、それらの無数の経路の合成を考える。

図1は、点 x_i から点 x_f までとある点 x を経由して、移動する確率 $p(\vec{x}, t; \vec{x}_i, t_i)$ と、 x から x_f へ移動する確率 $p(\vec{x}_f, t_f; x, t)$ の積である。



無数に存在する点 x を経由すると考えると、以下の式で表され、その様子を図2に示す。

$$\int d^d \vec{x} p(\vec{x}_f, t_f; x, t) p(\vec{x}, t; \vec{x}_i, t_i) \quad (1)$$

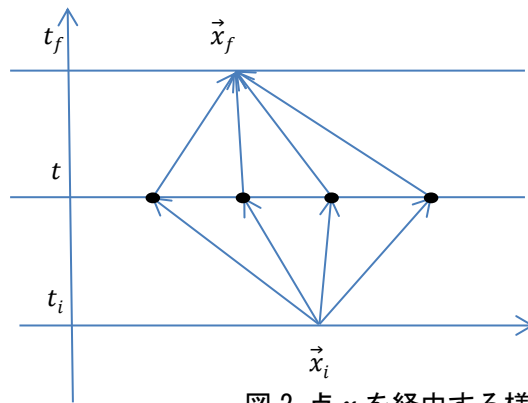


図2 点 x を経由する様子

分割して考える。これをさらに経由する回数を n 回にし、 n 分割して考えると、

$$p(\vec{x}_f, t_f; \vec{x}_i, t_i) = \int d^d \vec{x} p(\vec{x}_f, t_f; \vec{x}_{f-1}, t_{f-1}) \int d^d \vec{x} p(\vec{x}_{f-1}, t_{f-1}; \vec{x}_{f-2}, t_{f-2}) \cdots p(\vec{x}_{i+1}, t_{i+1}; \vec{x}_i, t_i) \quad (2)$$

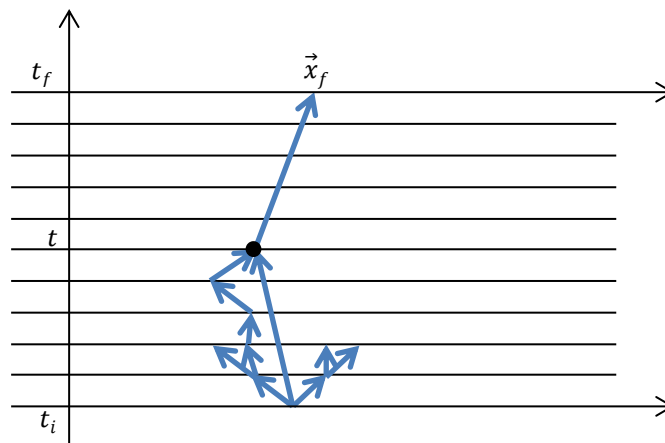


図3 n 回分割した時の様子

D次元における，点 x_i から点 x_f へ移動する確率 p は，以下ようになる。

$$p(\vec{x}_f, t_f; \vec{x}_i, t_i) = \frac{1}{[4\pi(t_f - t_i)]^{d/2}} \exp\left\{-\frac{(\vec{x}_f - \vec{x}_i)^2}{4(t_f - t_i)}\right\} \quad (3)$$

この式を(2)代入する。

$$\begin{aligned} p(\vec{x}_f, t_f; \vec{x}_i, t_i) &= \int \frac{d^d x_{n-1}}{[4\pi(t_n - t_{n-1})]^{d/2}} \exp\left[-\frac{(\vec{x}_n - \vec{x}_{n-1})^2}{4(t_n - t_{n-1})}\right] \\ &\times \int \frac{d^d x_{n-2}}{[4\pi(t_{n-1} - t_{n-2})]^{d/2}} \exp\left[-\frac{(\vec{x}_{n-1} - \vec{x}_{n-2})^2}{4(t_{n-1} - t_{n-2})}\right] \\ &\times \dots \\ &\times \int \frac{d^d x_1}{[4\pi(t_1 - t_0)]^{d/2}} \exp\left[-\frac{(\vec{x}_2 - \vec{x}_1)^2}{4(t_2 - t_1)}\right] \times \frac{1}{[4\pi(t_1 - t_0)]^{d/2}} \exp\left[-\frac{(\vec{x}_2 - \vec{x}_1)^2}{4(t_2 - t_1)}\right] \end{aligned}$$

これより，確率 p は以下の式で表せる。

$$p(\vec{x}_f, t_f; \vec{x}_i, t_i) = \int \prod_{j=1}^{n-1} \frac{d^d x_j}{[4\pi(t_{j+1} - t_j)]^{d/2}} \frac{1}{[4\pi(t_1 - t_0)]^{d/2}} \times \exp\left[-\frac{1}{4} \sum_{j=0}^{n-1} \frac{(\vec{x}_{j+1} - \vec{x}_j)^2}{(t_{j+1} - t_j)}\right] \quad (4)$$

式(4)を次の形に書き換える。

$$\begin{aligned} \frac{(dx)^2}{dt} &= dt \left(\frac{d\vec{x}}{dt}\right)^2 \\ p(\vec{x}_f, t_f; \vec{x}_i, t_i) &= \int_{x(t_i)=x_i}^{x(t_f)=x_f} D_x(t) \exp\left[-\frac{1}{4} \int_{t_i}^{t_f} dt \dot{x}^2\right] \quad (5) \end{aligned}$$

上記の式(5)のように，離散的であった値が連続となることがわかる。

図4のように経路を足し合わせた値が表される。

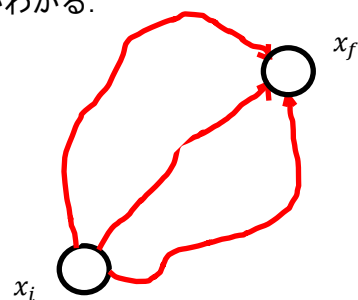


図4 経路図

参考文献

C. Itzykson, J. M. Drouffle Cambridge University Press(1989)

Statistical Field Theory

Cambridge University Press(1989)